

おまえがゆうな！

民主党が二大政党になり、政権をとった。こちらから言わせてもらえば、「そこまで言うならいっぺんやってみたら・・・」。つまり失敗に終わるのが目に見えている。野党のときに言っていたことが実際に政権をとってみると、論理の破綻があきらかになるから。(他の人は知らないが、後悔している人が多いのではないか。わずか半年で、支持率70%が30%になっている。) この理由を考えたい。

まず表面化したのが、小沢一郎が数十人の政治屋を引き連れて中国に行ったことである。これではまるっきり**朝貢外交**であり、**土下座外交**である。北京でソファーにチョコンと座って揉み手をせんばかりの卑屈な態度にあきれたことがあったが、この同じ人が日本ではそっくり返って顎で部下をこき使い、豪邸を建てる。これでは、たとえ商売上の話であっても相手に軽蔑され見下されて、商売そのものもうまくいかないだろう。(同じようなことは自民党にもあって、野中広務が「日本で吠えていてもめぐみさんは帰ってこない」と言った。中山某は「北朝鮮は気位の高い国ですから」と接待に応じてきた。それなら野中さん、当の北朝鮮に行っているのだから、直接めぐみさんを返せというべきだろう。だから自民も民主も同じ。)

次に明らかになったのが小沢一郎の政治資金がらみの話だろう。秘書が3人逮捕され、しかし、小沢は不起訴になった。検察は、司法に属するから独立しているかと思いきや、結局政治屋の走狗だったことがわかってがっかりした。つまり強硬に小沢を取り調べようとしていた人が左遷されるらしい、という話である。実際にはそうならなかったのだが、法務大臣の頭が悪かったから助かっただけのこと。そんなことばかりしていると、そうでなくとも検察の煮え切らない態度に国民はイライラしているのである。・・・ところが3月、民主党内部から澎湃として小沢おろしの声があがる。長崎県での選挙に大敗したからでもある。次の参議院選挙はそういう意味では面白くなるだろうが、国民もしっかりせんと、**もともと政治をや**

らせてはいけない連中を大挙当選させた去年の衆議院選挙の二の舞を踏むことになる。

鳩山は鳩山で、母親から小遣いをもらっていた。10万、100万ではない。1億10億もの大金である。あとで税金を支払っていたが、仮にわれわれの税金の支払いが遅れたら、税務署はあたかも犯罪者に対するように税金の取立てにくるではないか。

小沢は、政党を作ってはこわし、その結果国から支給された政党助成金の行方がわからなくなっている。そんなもん、銀行にあずけられますか、当然タンス預金ですよ。田中角栄らから学んでいる。

2010年2月中旬だったか。民主党の小沢一郎の秘書が逮捕されていたのが釈放され小沢もまた不起訴になった。すると、民主党参議会議長の何某が、「国民はカネのことがどうこうよりも早く政治を行なって、日本の将来をどうしていくかを国会で議論して欲しい、と願っていますよ」・・・なにをもったいぶって腰巾着が言う！ おまえがゆうな！ 早くカネの話から話題を変えたい、早く話をそらせたい、という姿勢が露骨に見え透いて。・・・そもそも小沢は、限りなく黒に近い灰色ではないか。国民はバカばかりではない。直後の長崎の選挙をみても！ 他の首長選挙でも連敗ではないか。

それでは自民党がいいか、と言えそうでもない。経過をみれば、自民党が政権を占拠してきた結果、恥も品位もなにもない国になって、これではだめだ、と多くの国民が思ったから選挙にも大敗し、結党以来初めてといてもいいくらい党の存亡の危機に陥ったのである。沈みかけた船から鼠が逃げ出すように後足で砂を掛けるようにして民主党に鞍替えした者まででてくる始末である。新党もいくつも提案されている。だから、元の自民党にもどるような愚かな選択をせず、新たな党を作って、当然個人の利益がどうのこうのではなく、真に日本をどうするか、どうしたいか、を考える人々が集まって「政変」をおこさないと本当に日本はだめになってしまう。・・・とりあえずは私利私欲を忘れて、日本をどうしたいのかを真剣に考えて働いてもらいたい。

2010.03.10.

ところで、民主党はマニフェストを遵守すると言いながら、実際には話が違うというようなことが多々でてきた。「マニフェスト」そのものが嫌いな言葉であるが、「公約」でなぜいけないの？ それはともかく、高速道路の無料化どころか値上げをすと言い出す始末である。八ッ場ダムの話もいつのまにか有耶無耶になってきた。最大の問題は沖縄県の米軍基地移転の問題である。5月末などとノー天気なことをいっていたら、米国が相手にしなくなり、鳩山は慌てているだろうがそんなことは初めからわかっていたことである。国防を考えれば今すぐに動くべき焦眉の課題ではないか！

ところが、三沢基地など経済を考えれば米軍がいる方がいいという。徳之島でも、表立っては言えない雰囲気だが、経済振興のためには期待している向きもあるという。

沖縄県民に多大の負担を負わせているなら、たとえば沖縄県民の税金を免除するとか、何か考えろよ。「沖縄県民かく戦へり。後世、県民に対して格別のご高配を賜らんことを」が泣いている。

そしてもっとも恐るべき事は、「言論の封殺」である。たとえば副幹事長の生方某さんが、小沢とははっきり言わないが、だれが聞いても小沢のことであることが明白である。これを非難したら、これまた腰巾着の筆頭副幹事長などと称するのがでてきて、生方さんを変更するという。これでは、独裁国家・専制国家であり、自由な議論などできるわけがない。まるでどこかの共産主義と変わらないではないか。

かつて、田中角栄の娘が外務大臣になり、無能ぶりを露呈したが、この人の娘の醜聞？が週刊文春に載った。すると裁判所が発売禁止にしてしまって、アア裁判官も気骨のないことで、無事平穩に役目を果たせば安らかな老後が保障されているのだろうか。文春は、腰砕けでこのことは以前にも書いた。

小沢は選挙のことばかり言っているが、いよいよ独裁に拍車がかかる。国民を舐めてはいけない、手痛いしっぺ返しが待っている。

来たる参議院選挙では惨敗するだろう。

大阪府知事の橋下の新党結成に対し、「殴られたら殴り返す」と恫喝した民主党幹部がいるという。たかじんの「そこまで言って委員会」の司会でもある辛坊次郎が、「だれとは言いませんが、あるいは言えませんが」と言うと、アナウンサーの女の子が、「官房長官！」。辛坊さんは大笑いしながら、「わたしは言うておりません。言ったのは彼女です！」（まあお互いに暗黙の了解のもとに、言ったのであるが。・・・だから辛坊さんの腰が引けていた、というわけではない。言わせるように仕向けただけのことで、政治に関心のある人が聞けば「誰のことか」言わでものことかもしれないが、民主党の本音がでただけのこと。・・・余程に気に入らなかったのだろうが、これも言論封殺である。ファシズムと言ってもいい。

マニフェストについて、国民は10か50か知らないがマニフェストすべてに賛成して投票したわけではない。それでもマニフェストを遵守すると言うのだから、いかに国民の考えを理解していないかがわかる。高速道路の話でもそうで、何時の間にか値上がりになっていて、新たな道路建設費用にまわすという。これほどの言行不一致も珍しい。

時事ネタは、もういいやとも思う。徐々に国民と乖離しているのがわかってくると、次の手が読める。独裁政治の末路は、ロシアでもヒトラーでも懲りて来たはずなのだが。

本来なら毎日記事を書いている新聞が、その日その日のできごとを追っかけて、然るべき論評を加えなければならないのに、何も考えることなく官邸サイドの発表を鵜呑みにしてただ書いているだけである。頭を使わずに記事を書き、きちんと追いかけて十分な取材をするような記者・ジャーナリストがいなくなったのか。

2010. 04. 20.